



見上げるような  
大型のドラム乾燥機は、  
乾燥工程の主役級の  
存在感を放ちながら  
今日も回り続けている。

## おらだの 仕事場 Vol.8



タンブラー乾燥機  
ウールや毛糸は  
これで乾燥させる



乾燥室での自然乾燥

**精** 練された生地の乾燥方法は、「ドラム乾燥」「ロール乾燥」「タンブラー乾燥」の四種類がある。それぞれに扱う生地の性質や長さ厚さなどによって使い分けられている。「ドラム乾燥」で主に取扱われるのはシルク、ウール、交織(こうしよく)等の長く厚めの生地や、逆にロール乾燥では薄すぎて対応しにくいジョーゼット生地などである。

工場内には四機のドラム乾燥機があり、最大のものでは高さ2メートルを優に超える大きさである。蒸気管を通じて送り込まれた蒸気によって130℃に熱せられたドラム。8連になったそのドラムの間を、生地はSの字を描くように

通り抜けていく。ドラムの径の大きさを活かし、熱面に接する面積や長さも大きくなることで、時間をかけてじっくりと生地を乾燥させることができる。そのため厚手の生地を扱うことが多いという。作業で特に気を付けるのは「テンション調整」という生地の張力

## おらだの職人さん Profile ⑧

交織など多様化するシルクは、以前の工程では対応が難しいものもあり、試行錯誤の末にシワなく綺麗に仕上がった時はとても嬉しく感じます。ドラム乾燥機は大型で高さもありメンテナンスや清掃が大変ですが、「加工のことは機(ハタ)に聞け」という先人の教えを胸に刻んで仕事をしています。



整理課 主任(ドラム乾燥機担当)  
**沢川 賢一** (平成18年入社)

S字に回る乾燥機のベルト 繊細な感覚で生地の質を均一に保つ

の調整である。乾燥機に送り出される生地の径は次第に小さくなり、機械を通り捲かれる生地の径は徐々に大きくなるため、張りにバラツキが出てくる。そこを見極め、生地の状態に目を配り微調整していく。機械では対応できない繊細で微妙な職人の感覚が生かされる場面である。こうして生地は均一の質に仕上がっていくのである。



ドラム乾燥機による仕上作業(上)  
乾燥仕上工程を支えるドラム乾燥機(下)

- 多彩な特殊加工技術で対応**
- ・オパール加工・樹脂加工・毛焼き加工
  - ・オイリング・スリップ止め・ピーチ加工・柔軟加工
  - ・UVカット加工・防燃加工・撥水加工・抗菌加工
  - ・湯通し加工・湯煮(糊落し)・漂白仕上 など

お気軽になんでもご相談ください!





はぶたえ

## 第八号発刊にあたって

羽前絹練株式会社

代表取締役 阿部 純次

大正、昭和そして平成と幾多の時の年輪を刻んできた社屋の二階に「拝謁の間」と呼ばれる大広間がある。ここは、大正から昭和にかけて、皇族の方々をはじめ、さまざまな著名な名士、大臣など多くの人々をお迎えした歴史と伝統に彩られた由緒ある間である。

とりわけ皇室の行啓に関わる二つの出来事が、記念碑的な歴史として今に語り継がれている。

# 皇族行啓の歴史を今に伝える「拝謁の間」

絹のみちしるべ 8

大正14年(1925)10月15日、当時の皇太子である東宮殿下(のちの昭和天皇)の東北行啓で来鶴した折、産業視察の一環で当社工場に立ち寄り、精練の様子などを興味深く御覧いただき、この間にて社の関係者が拝謁したと伝えられている。

大正14年(1925)東宮殿下(のちの昭和天皇)の来鶴の様子を報じる当時の新聞記事



弊社の企業理念や業務、絹織物の知識、日本遺産「サムライゆかりのシルク」の物語を紡ぐ地元鶴岡などについてご紹介したいと考え「はぶたえ」を発刊し、おかげさまで第八号となりました。

これまで以上に弊社業務や鶴岡絹織物をご理解いただくための一助として、今後ともご愛読いただければ幸いです。

平成から新たな年号に替わる記念すべき年を迎えたのを機に、今回、皇室とも縁のある弊社「拝謁の間」の逸話を記しました。

寒さ厳しい折ではございますが、ひととき、ゆったりとご高覧いただきますことを願っております。



拜謁の間(上)  
致道博物館創設者・酒井忠良  
伯爵の掛軸(左)  
拜謁の記念額(右)



昭和25年(1950)には、日本蚕糸會総裁の貞明皇太后陛下が、当時、山形県織物整理精練有限公司鶴岡工場という名称だった当社を訪問され、熱心に工程を視察され、この間にて社の関係者が拝謁したと伝えられている。

長い時代を経てもなお、シルクの一貫生産工程が残存する貴重な地域である鶴岡。平成28年には養蚕に造詣の深い天皇皇后両陛下が、かつて養蚕業の中心地であった松ヶ岡開墾場を御訪問されている。平成29年には、「サムライゆかりのシルク 日本近代化の風景に出会うまち鶴岡へ」で日本遺産に認定された。先人達が綿々と受け継いできた歴史と伝統を、新たな可能性を秘めた産業へと育てていくことが、私たちに課せられた責任である。

鶴岡散歩

観光・風土・自然・味覚

## 御室ともいわれ山全体が神とされる 出羽三山の主峰

### 霊峰・月山

山形県の中心に位置し、羽黒山、湯殿山と共に出羽三山をなす。古来、先祖の御霊が鎮まる霊場であり、生命の糧を司る神さまがおられる畏れ多い聖地と伝えられ、多くの参拝者が訪れる。高山植物の宝庫でもある自然豊かな霊峰。



## まるやかで奥深い味わいの伝統の発酵食

### しょうゆの実



大豆や白米、大麦などを用いた麴にし、生醤油で仕込みもろみの状態で発酵熟成させる伝統食。素朴な中にもまるやかで奥深い味わいがあり、炊き立てのご飯のお供に、きゅうりや冷奴に、お茶漬げや調味料としても重宝される発酵食です。



弊社表玄関(日本遺産構成文化財)



## 羽前絹練株式会社

〒997-0044 山形県鶴岡市新海町21-1  
TEL:0235(24)1300 FAX:0235(24)1302  
e-mail mail@uzen-kenren.co.jp  
URL http://www.uzen-kenren.co.jp